

IBM Cognos Analytics
バージョン 11.0.x

新機能ガイド

IBM

©

本資料は、IBM Cognos Analytics バージョン 11.0.0 および以降のリリースに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos Analytics
Version 11.0.x
New Features Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

著作権

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corp. 2015, 2018.

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft 製品のスクリーン・ショットは、Microsoft 社の許可を得て使用しています。

© Copyright IBM Corporation 2015, 2018.

目次

第 1 章 新機能および変更された機能	1
リリース 11.0.13 - 2018 年 11 月	1
リリース 11.0.12 - 2018 年 6 月	2
リリース 11.0.11 - 2018 年 5 月	3
リリース 11.0.10 - 2018 年 3 月	4
リリース 11.0.9 - 2017 年 12 月	5
リリース 11.0.8 - 2017 年 11 月	6
リリース 11.0.7 - 2017 年 8 月	9
リリース 11.0.6 - 2017 年 3 月	16
リリース 11.0.5 - 2016 年 11 月	20
リリース 11.0.4 - 2016 年 9 月	25
リリース 11.0.3 - 2016 年 7 月	28
リリース 11.0.2 - 2016 年 5 月	31
第 2 章 非推奨の機能および削除された機能	33
索引	35

第 1 章 新機能および変更された機能

Cognos® Analytics の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

バージョン: [11.0.13](#) - [11.0.12](#) - [11.0.11](#) - [11.0.10](#) - [11.0.9](#) - [11.0.8](#) - [11.0.7](#)
- [11.0.6](#) - [11.0.5](#) - [11.0.4](#) - [11.0.3](#) - [11.0.2](#)

リリース 11.0.13 - 2018 年 11 月

Cognos Analytics 11.0.13 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

[11.0.13](#)

全般

新しい基本サンプル

新しいサンプルが基本サンプルの配布に追加されました。配布をご使用の Cognos Analytics 環境にインポートする手順については、当社のブログ投稿を参照してください。

- Country comparison dashboard sample (国の比較ダッシュボードのサンプル) では、多言語サポートを例示しています (このサンプルは、v11.0.12 で追加されました)。
- Product line dashboard sample (製品ライン・ダッシュボードのサンプル) には、新しい「ネットワーク」可視化 (視覚化) が組み込まれています。
- サンプル・データ・モジュールには、「製品タイプ・コード」用の新しい算出列が組み込まれています。

管理

動的クエリー・モードでのより大きいデフォルトの精度の VARCHAR

SQL 規格では、ラージ文字 (マルチバイト文字) 値を保持するために、ラージ文字オブジェクト・タイプ (CLOB) と国別文字ラージ・オブジェクト・タイプ (NCLOB) を定義しています。さまざまなデータベース・ベンダーで、CLOB タイプ、または CLOB と同様の特性を提供するそれらのベンダー独自のタイプ名をサポートしています。

CLOB データ・タイプでは、クエリーで使用できる SQL 構文にいくつかの制限を課しています。また各ベンダーは、JDBC などの、CLOB 列がクライアント・インターフェース内でどのように処理されるかに関する追加の規則を課すこともあります。CLOB 関連の制限を回避するために、動的クエリーでは、CLOB 列を可変文字 (VARCHAR) データ・タイプに型キャストします。CLOB タイプの最初の N 個の文字が、VARCHAR として動的照会に返されます。

動的照会は、データベース・ベンダーでサポートされるデフォルトの精度よりも大きいデフォルトの精度の VARCHAR を使用するように拡張されまし

た。より大きい値を使用するために、データ・サーバー接続で `ibmcognos.maxvarcharsize=N` プロパティを指定することで、デフォルトの精度をオーバーライドします。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics 管理およびセキュリティ・ガイド*」の Cognos 固有の接続パラメーターに関するトピックを参照してください。

Delivery サービスの詳細設定

Delivery サービス用の次の 2 つの詳細設定が、リリース 11.0.13 に追加されました。

- `dls.connection.pool.force.clean`
- `dls.connection.pool.used`

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics 管理およびセキュリティ・ガイド*」の『Delivery サービスの詳細設定』を参照してください。

Amazon Athena JDBC ドライバー 1.1.1001

IBM Cognos Analytics で、Amazon Athena JDBC ドライバー 1.1.1001 がサポートされるようになりました。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics 管理ユーザー・ガイド*」の『Amazon Athena JDBC driver 1.1.1001』を参照してください。

リリース 11.0.12 - 2018 年 6 月

Cognos Analytics 11.0.12 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.12

ダッシュボードとストーリー

マルチリンガル・ダッシュボード

ダッシュボードおよびストーリーをさまざまな言語で作成し、ユーザーが選択した言語でダッシュボードを操作できるようにします。このアクティビティはダッシュボードのローカライズとも呼ばれます。ローカライズされたコンテンツでは、視覚化にテキスト・ウィジェットおよびタイトルを含めることができます。画像、メディア、Web ページ・ウィジェット内の記述もローカライズできます。ストーリーでは、シーン名やその他のアイテムをローカライズできます。

詳しくは、*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide* を参照してください。

ダッシュボードのリセット

最後に保存したバージョンのダッシュボードに戻すには、ダッシュボードをリセットします。

詳しくは、*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide* を参照してください。

リリース 11.0.11 - 2018 年 5 月

Cognos Analytics 11.0.11 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.11

全般

従来のポータル・ページのサポート

Cognos Analytics 11 に移行する Cognos Business Intelligence 10.x ユーザーは、Cognos BI で作成したポータル・ページを引き続き使用できます。

詳細は、IBM Cognos Analytics ブログを参照してください。

レポートおよびダッシュボードのカスタム多角形

IBM® Cognos Analytics は、Mapbox とのパートナーシップにおけるカスタム多角形の使用をサポートしています。ダッシュボードでマップを使用するときに、マップで Mapbox からのカスタム地点または地域情報を使用することができます。マップ上で追加レイヤー (タイム・ゾーン・レイヤーなど) を使用して、追加情報を表示できます。 geoJSON カスタム多角形ファイルをタイルセットとして Mapbox にアップロードします。 Mapbox からベクトル・マップをマップ視覚化の位置指標として使用するには、地域または地点データを含むデータ・ソースを使用します。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories user guide*」および「*IBM Cognos Analytics Reporting user guide*」を参照してください。

あいまいな接続を処理するプロセスの改良

クエリー・エンジンが、使用可能な複数の接続が含まれるデータ・ソース (データ・サーバー) への接続を確立しようとする、あいまいな接続のメッセージが表示されます。例えば、データ・ソースに 2 つ以上の接続が含まれる場合、どの接続も使用できない場合、ユーザーがすべての接続を使用する権限を持っている場合に、あいまいな接続のメッセージが表示されます。

このリリース以降、動的クエリー・モードと互換性クエリー・モードの両方で実行される IBM Cognos Analytics アプリケーションにおいて、あいまいな接続を処理するプロセスが改良されました。アプリケーションによって使用されるモデルがどちらのモードであっても、コンテンツ・ストアで同じデータ・ソース接続名を参照することが期待されます。以前のリリースでは、動的クエリー・モードで使用するために個別の JDBC 接続が既存の接続に追加されると、あいまいな接続のメッセージが表示されていました。

改良されたプロセスでは、あいまいな接続は以下のように処理されます。

- 動的クエリー・モードを使用するようにパッケージが構成されている場合、JDBC 以外のデータ・ソース接続は無視されます。
- 互換性クエリー・モードを使用するようにパッケージが構成されている場合、JDBC データ・ソース接続は無視されます。
- データ・ソースに 1 つの接続だけが含まれている場合、この接続が使用されます。
- データ・ソースで 2 つ以上の接続が使用可能な場合、あいまいな接続のメッセージが表示されます。

ダッシュボードとストーリー

データ・キャッシュ・プロパティ

ダッシュボードまたはストーリーのパフォーマンスを向上するためにデータ・キャッシュを有効にします。これは特に、複数のユーザーが同じ保存済みのダッシュボードまたはストーリーに同時にアクセスする場合に役立ちます。

詳しくは、*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide* を参照してください。

新機能の紹介ビデオ

こちらの短いビデオで、このリリースのいくつかの機能を紹介しています (ビデオ (<https://youtu.be/fqQDfoly-a4>))。

リリース 11.0.10 - 2018 年 3 月

Cognos Analytics 11.0.10 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.10

全般

URL の作成

URL は、外部ファイルや Web サイトの場所を指定するための標準的な方法です。URL を作成すると、よく使用するファイルや Web サイトに簡単にアクセスできます。URL をクリックすると、ファイルや Web サイトがブラウザで開かれます。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Getting Started Guide*」を参照してください。

OpenId Connect 認証プロキシ

Cognos Configuration に IBM Cognos Analytics 用の「OpenID Connect 認証プロキシ (OpenID Connect Authentication Proxy)」というプロバイダー・タイプが新たに追加されました。このメニューには、OpenID Connect の信用サインオン・プロバイダー (TSP) を設定するオプションがあります。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Installation and Configuration Guide*」を参照してください。

すべてのユーザーがジョブを作成

これまでは、管理者のみが「管理」>「ジョブ」をクリックしてジョブを作成できました。リリース 11.0.10 以降、「ジョブ」ボタンは「新規」ボタンの下に表示され、すべてのユーザーが使用できるようになりました。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Getting Started Guide*」を参照してください。

ダッシュボードとストーリー

ダッシュボードを PDF にエクスポート

ダッシュボードの PDF を作成して、印刷したり電子的手段で共有したりできます。印刷した PDF があれば、飛行機での移動中など、コンピューターが手元にないときに参照できて便利です。また、PDF は E メールで簡単に共有できます。

ダッシュボードまたはストーリーからレポートへのドリルスルー

ダッシュボードまたはストーリー上の視覚化からレポートにドリルスルーできます。この機能により、視覚化の元のコンテキストを保持したまま、視覚化から関連レポートにナビゲートできます。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories Guide*」を参照してください。

データのモデリング

データ・モジュールのソースの再リンク

データ・モジュールのソースを別のソースに再リンクできます。この機能は、データ・モジュールの現在のソースが無効な場合や、テスト用ソースを実動用ソースに置き換える場合に使用できます。

再リンクに成功した場合、データ・モジュール内のグローバル計算および関係は前と変わらず有効であるため、そのデータ・モジュールに基づくレポートとダッシュボードを、新規ソースを使用して開始できます。レポート作成者が関与する必要はありません。再リンクするソースは、元のソースと同じタイプでなければなりません。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Data Modeling Guide*」を参照してください。

新機能の紹介ビデオ

こちらの短いビデオで、このリリースのいくつかの機能を紹介しています (ビデオ (<https://youtu.be/tXPJdinwdN8>))。

リリース 11.0.9 - 2017 年 12 月

Cognos Analytics 11.0.9 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。 **11.0.9**

全般

Planning Analytics 名前付きセットのサポート

レポート、ダッシュボード、およびデータ・モデリングで IBM Planning Analytics 名前付きセットにアクセスできます。名前付きセットを表示したり、名前付きセットでフィルタリングしたり、名前付きセットに基づいて視覚化を構築したりすることができます。

ダッシュボードとストーリー

地図の視覚化での緯度と経度のロケーション情報の追加

ダッシュボードで地図を使用するときに、1 つのロケーションのデータを、塗りつぶした地域、点、緯度/経度の点のいずれか、あるいはこれらのロケーションの組み合わせで表示することができます。

ラベルの向きの変更

一部の視覚化で、水平軸のラベルの向きを変更できます。

フルスクリーン・モード

トップ・バーに新しいフルスクリーン・ボタンがあります。このボタンを使用すると、トップ・バーとサイド・バーのないダッシュボードを表示できます。

管理

PostgreSQL 接続を Amazon Aurora PostgreSQL で使用可能

このリリース以降、既存の PostgreSQL 接続エディターと JDBC ドライバーを使用して、Amazon Aurora PostgreSQL へのデータ・サーバー接続を作成および保守することができます。

こちらの短いビデオで、このリリースのいくつかの機能について紹介しています (<https://youtu.be/33wMDRfDNjw>)。

リリース 11.0.8 - 2017 年 11 月

Cognos Analytics 11.0.8 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.8

全般

新規データ・ソースのサポート

このリリース以降、次のデータ・ソースがサポートされます。

MongoDB Connector for BI 2.2.1

Cognos Analytics では、MongoDB で必要な MySQL JDBC ドライバーを介して、MongoDB Connector for Business Intelligence (BI) 2.2.1 がサポートされます。MongoDB BI Connector for BI バージョン 2 では、Postgres JDBC ドライバー、および MongoDB 3.x サーバーにアクセスするためのサーバー・テクノロジーは使用しなくなりました。

ヒント: MongoDB Connector for BI バージョン 1 はサポート対象外となりました。バージョン 2.2.1 を使用するよう、すべてのバージョン 1 を使用している接続を更新してください。また、BI Connector バージョン 2 に接続されている間に既存の Cognos モデルを更新します。そうすることで、MongoDB Connector for BI バージョン 2 で導入されたデータ・タイプやスケールの差異がモデル・メタデータに反映されます。

Spark SQL 2.1 Thrift サーバー

Cognos Analytics では、Spark SQL 用 SIMBA (Magnitude) JDBC ドライバーを介してアクセスされる Spark SQL 2.1 Thrift サーバーがサポートされます。

Azure SQL Data Warehouse

Cognos Analytics では、Azure SQL Data Warehouse がサポートされます。接続は SQL 接続エディターを使用して保持されます。

Amazon Redshift

デフォルトで、Cognos Analytics では、Amazon Redshift ユーザーが RedshiftJDBC41*.jar ファイルの 1 つのバージョンを *cognos_analytics_locationdrivers* ディレクトリーにコピーする必要があります。4.0 または 4.2 ドライバーを使用するための要件はありませんが、デフォルトのドライバー・クラス名を編集して Amazon でサポートされるドライバー・クラス名に対応させることができます。バージョン 1.2.1 以降の Amazon JDBC ドライバーでは、以前のドライバー・クラス名の代わりに使用できる汎用名 `com.amazon.redshift.jdbc.Driver` がサポートされます。

Amazon Athena

Cognos Analytics では、Amazon Athena JDBC ドライバーを介して Amazon Athena がサポートされます。接続には、Amazon Athena `s3_staging_dir` 接続プロパティーを使用して、有効な Amazon S3 ロケーションを指定する必要があります。このロケーションからドライバーが照会結果を取得します。

この製品でサポートされるソフトウェア環境についての詳しい情報を入手するために、IBM Software Product Compatibility Reports (SPCR) ツールからレポートを実行できます。

「ページ・デザイン」モードまたは「ページ・プレビュー」モードでのデータ・セットの作成

データ・セットを作成する場合に、「ページ・デザイン」ビューを継続できるようになりました。これによって、データ・セットが非常に大きい場合に、データ取得の遅延を防ぐことができます。以前と同様に、更新されたデータを確認する場合に、「ページ・プレビュー」ビューに切り替えることができます。

スケジュールされた処理の管理

スケジュールされた処理の管理を、一般ユーザーと管理者が同様にできるようになりました。ユーザーは新しいオプション「個人用スケジュールと登録 (**My schedules and subscriptions**)」を使用して、自分のスケジュールされた処理と登録を表示および編集できます。管理者は、同様のインターフェースを使用して、すべてのユーザーのスケジュールされた処理を管理できます。

ダッシュボードとストーリー

ラベルの可視性を高めるための追加オプション

一部の視覚化では、ラベルに影を追加してラベルのコントラストを高めることができます。

あいまいなデータ・ソース接続およびサインオンの解決

ダッシュボードまたはストーリーを作成していて、複数のデータ・ソース接続とデータ・ソース・サインオンがある場合、あいまいな接続を解決するように促すプロンプトが出されます。

ストーリー内のデータの強調表示

ストーリー内の特定のデータを、そのデータが出現するコンテキストを表示しながら強調表示することができます。例えば、特定の年だけ強調表示し、他の年はすべて強調しないようにすることができます。

シーンのタイムライン上で、どのデータを強調表示して、ストーリー内のどこで強調表示を表示するかを制御します。開始するには、データを強調表示する視覚化のタイムライン・スライダーをタップし、「強調表示の追加」ボタンをタップします。

詳しくは、「*Dashboards and Stories User Guide*」を参照してください。

すべてのシーンおよび/または連続ループの再生

ストーリーでは、最初から最後に停止するまですべてのシーンを再生したり、プレゼンターが手動で各シーンをクリックすることなくストーリーを連続でループさせたりできます。

こちらの短いビデオで、ストーリーの更新点について紹介しています (<https://youtu.be/L3pm3FcD98g>)。

レポート作成

地図の視覚化での緯度と経度のロケーション情報の追加

レポートで地図を使用するときに、1つのロケーションのデータを、塗りつぶした地域、点、緯度/経度の点のいずれか、あるいはこれらのロケーションの組み合わせで表示することができます。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Reporting Guide*」を参照してください。

ラベルの可視性を高めるための追加オプション

一部の視覚化では、ラベルに影を追加してラベルのコントラストを高めることができます。

レポートを XML として保存

レポート使用者がレポートを XML 形式で保存できるようになりました。

イメージ・ギャラリーからレポートへのイメージの追加

レポート作成者がイメージをイメージ・ギャラリーからレポートに追加できるようになりました。ダッシュボード作成者にも製品の以前のバージョンからの同様の機能があり、イメージをイメージ・ギャラリーからダッシュボードに追加できます。

こちらの短いビデオで、レポート作成機能の更新点について紹介しています (<https://youtu.be/ebfTqRC7aJE>)。

データのモデリング

データ・モジュール・ダイアグラムの改良

データ・モジュール・ダイアグラムが再設計されました。カーディナリティー設定の変更などの改善点が含まれます。

こちらの短いビデオで、モデリング機能の更新点について紹介しています (<https://youtu.be/w83Fb57znNA>)。

Cognos Analytics の管理

拡張機能をアップロードできるようになったポータル管理者

例えばユーザーがイメージや形状をレポートまたはダッシュボードに追加できるようにする拡張機能を、ポータル管理者がアップロードできるようになりました。以前は、拡張機能をアップロードできるのはシステム管理者だけでした。

インストールと設定

サポート対象の OpenID Connect プロバイダーに SiteMinder を追加

サポートされる OpenID Connect プロバイダーのリストに、SiteMinder が含まれるようになりました。

Subject Alternative Name のサポート

Cognos Analytics のデフォルトの暗号プロバイダーで、SSL 証明書の発行元の検証に使用される Subject Alternative Name プロパティーがサポートされるようになりました。

Cognos for Microsoft Office

Cognos for Microsoft Office の統合

Cognos for Microsoft Office v11.0 リリースによって、プラグインを使用して Cognos Analytics 資産を Microsoft Office 製品に組み込むことができます。

Cognos for Microsoft Office のインストール・ガイドおよびユーザー・ガイドが、Cognos Analytics 11.0.x Knowledge Center の「BI コンポーネント」セクションに追加されました。

リリース 11.0.7 - 2017 年 8 月

Cognos Analytics 11.0.7 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.7

全般

ホーム・ページの再編成

ユーザー・エクスペリエンスを IBM Watson Analytics と統一するために外観を更新しました。例えば、「ホーム」ボタンはインターフェースの左上隅に表示されます。ページの中央にあるタイルは、最近変更したデータ資産を表すようになりました。アプリ・バーの中央にあるスイッチャー・メニューにより、開いた資産の間をナビゲートできます。

データのアップロードと資産の作成

データをアップロードしたり新しい資産を作成したりするには、左下隅の「+ 新規」をタップします。その後、データのアップロードや資産の作成のオプションを続行します。

MemSQL と Presto のサポート

リリース 11.0.7 から、Cognos Analytics は以下の機能をサポートします。

- MemSQL (バージョン 5.5 以降)
 - MySQL Connector/J JDBC ドライバーを使用する MemSQL がサポートされます。
 - 接続は MySQL 接続エディターを使用して保守されます。
- Presto (バージョン 0.167 以降)
 - Presto と Teradata Presto の両方の JDBC ドライバーがサポートされます。
 - 接続は、どの JDBC ドライバーを使用しているかに応じて、Presto または Teradata Presto 接続エディターを使用して保守されます。

注: Presto の現行リリースでは、固定長文字タイプ (CHAR) のサポートが限定されているため、正しくない結果になることがあります。この制限を回避するためには、可変長文字タイプを使用する式を生成してください。

この製品でサポートされるソフトウェア環境についての詳しい情報を入手するために、IBM Software Product Compatibility Reports (SPCR) ツールからレポートを実行できます。

ダッシュボードとストーリー

カスタマイズされたイメージの「ウィジェット」パネルへの追加

ダッシュボードおよびストーリーの「ウィジェット」パネルに、カスタマイズされたイメージのイメージ・ライブラリーをホストできるようになりました。イメージは管理者が新規拡張機能を使用してアップロードできます。詳しくは、「IBM Cognos Analytics 管理ユーザー・ガイド」の『ダッシュボード画像の追加』を参照してください。

こちらの短いビデオで、インターフェースの機能拡張と視覚化の改良点について紹介しています (<https://youtu.be/uByuhAfQ1pg>)。

スライド・ショー・ストーリーでのアニメーション表示の移行

スライド・ショー・ストーリーでは、「アニメーション表示のパス (Animated path)」の移行により、ストーリーを再生するときに、あるシーンでの位置から次のシーンでの新しい位置にオブジェクトが移動する際の効果を作成できます。

「アニメーション表示のパス (Animated path)」の移行の使用を開始するには、スライド・ショーのシーンにオブジェクトを追加し、そのシーンを複製してから、複製したシーンでオブジェクトを移動またはサイズ変更します。ストーリーを再生して、移行をテストします。

こちらの短いビデオで、ストーリーの機能について紹介しています (<https://youtu.be/nhuttCxH5cw>)。

「データ・トレイを開く」アイコン

「データ・トレイを開く」アイコンは、編集モードまたはプレビュー・モードでのみ使用可能になりました。

「データ・トレイを開く」アイコンが表示されない場合、「編集またはプレビュー」アイコンをタップしてください。



フィルター

フィルターの機能拡張としては、以下のものがあります。

- フィルター領域をサイズ変更できる
- タイトルの下のフィルター情報
- 上位下位カウント %
- 条件に基づくフィルター
- フィルター領域を非表示にして画面サイズを拡大する
- ツールチップからのフィルターをクリアする
- 消費モードではページ・フィルターを追加できなくなりました
- 消費モードではグローバル・フィルターを追加できなくなりました

デフォルトのソート順

英字データ用のデフォルトのソート順の値は、「昇順にソート」になりました。これにより、ソート順が明示的に設定されていなかった既存の視覚化の外観が影響を受けることがあります。

ウィジェット

ウィジェットの自動最新表示 (タイマーに基づく)。フィルター・グループを使用してウィジェットを切断することもできます。

ダッシュボード内の地図の機能拡張

複数のロケーション・カテゴリーを地図に追加して、あいまいなロケーション名を削減または除去することができます。

ダッシュボード内の地図について詳しくは、『ダッシュボードとストーリー』を参照してください。

データ・モジュールからのナビゲーション・パス

データ・モジュールの「データ・アイテム」タブにナビゲーション・パスが表示されるようになりました。このオプションにより、データ・モジュールに定義された任意のレベルにナビゲートすることができます。

ナビゲーション・パスについて詳しくは、『ダッシュボードとストーリー』を参照してください。

こちらの短いビデオで、ダッシュボードの機能について紹介しています (<https://youtu.be/60KyLAvqQOA>)。

レポート作成

レポート内の地図の機能拡張

複数のロケーション・カテゴリーを地図に追加して、あいまいなロケーション名を削減または除去することができます。さらに、点ロケーションのロットが追加されたので、データを 2 つのロケーション数値データ、つまり塗りつぶした領域と点で示すことができます。

レポート内のマップについて詳しくは、『レポート作成』を参照してください。

注: レポート内での既存の Map Manager 地図機能について説明する資料は、付録の『レポート作成』に移行しました。地図に関連した他のすべての資料は、製品内でマップが現在どのように機能するかを説明しています。

対話式フィルター

ユーザーは、HTML レポート内に対話式フィルターを作成して管理することができます。

この機能は、ユーザーがレポート作成者に依存することなく、レポートの内容を詳しく理解し、それに応じてビューを変更するために役立ちます。レポート利用者は、行える機能が増えて柔軟に対応できるので、簡単ではあっても重要な作業を実行できるようになります。例えば、オンデマンドのツールバーを使用して、レポート出力にフィルターを直接作成したり、簡単な計算を作成したり、アイテムをソートしたり、といったさまざまな操作を行えます。

対話式ビューアーのアプリケーション・ツールバーで、フィルター・パネルを開くためのフィルター・アイコンを使用できます。パネルには、レポート利用者がレポート出力に作成したすべてのフィルターが表示されます。ユーザーがこのパネルでフィルターをクリックすると、選択されたフィルターを使用するすべてのデータ・コンテナがレポート内で自動的に強調表示されます。データ・コンテナを選択すると、フィルター・パネルは即時に更新されて、選択したデータ・コンテナに適用されるフィルターだけが表示されます。ユーザーはパネル内でフィルターを直接編集または削除することができます。

ユーザーはフィルター・パネルをサイズ変更したり、画面解像度に応じてパネルをピン留め/ピン留め解除したりすることができます。レポート作成者は、作成したフィルターをレポート利用者が見えるようにして、このパネル内で対話できるようにすることもできます。

このパネルでは、式エディター内で手動で作成される低水準のフィルター式を作成または表示することはできません。Cognos Analytics の以前のバージョンで作成されたすべてのフィルターは、デフォルトで対話式フィルターが無効になっています。

この機能は、アクティブ・レポートでは使用できません。

「個人用パラメーター (My parameters)」パネルでの独自のパラメーターの設定

レポートのパラメーターとプロンプト値を設定して、レポートの実行時に、個別設定した値がデフォルトで使用されるように設定することができます。管理者は、パラメーター名とそれらのデフォルト値が利用者の「個人用パラメーター (My parameters)」パネルに表示されるように、それらを構成します。ただし、利用者は必要であればデフォルト値を変更できます。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Reporting Guide*」を参照してください。

対話式パフォーマンス支援機能

「パフォーマンス詳細を含める」オプションを使用すると、作成者は、レポートのパフォーマンスを対話式に表示することができます。「パフォーマンス詳細を含める」は、HTML として実行してページを設計するか、オーサリング・モードでプレビュー・モードを使用してページを設計する際に使用できます。

パッケージ・ベースのドリルスルー

Cognos Analytics は、対話式ビューアーでパッケージ・ベースのドリルスルーをサポートするようになりました。ドリルスルー・リンクにアクセスするには、データ・アイテムを選択し、エクスプローラー・ボタンを使用して「関連するリンク」にアクセスします。ドリルスルー・リンクが「関連するリンク」メニューにリストされます。

こちらの短いビデオで、レポート作成機能について紹介しています (<https://youtu.be/4r6ZvcgcAMA>、<https://youtu.be/T99FIzyuYE4>)。

データのモデリング

メタデータのロード時に **Kerberos** 認証および接続コマンド・ブロックをサポート

データ・モデリングのメタデータのロード機能で、Kerberos 認証および接続コマンド・ブロックがサポートされるようになりました。

つまり、これらの機能が組み込まれたデータ・サーバー接続を、データ・モジュールのソースとして使用できるようになりました。これまでのリリースの Cognos Analytics では、これらの機能が組み込まれていない接続しか、データ・モジュールのソースとして使用できませんでした。データ・サーバー接続の作成方法については、「*IBM Cognos Analytics Managing User Guide*」を参照してください。

モデル作成ユーザー・インターフェースのユーザー・エクスペリエンスの改善

データ・モジュールを作成するときのユーザー・エクスペリエンスが改善されました。すべての対話において応答時間がより迅速になるなど、データの準備に関するすべての側面が改良されました。

ユーザー・インターフェースのレイアウトが見やすくなり、データ・グリッド、ダイアグラム、検証の各ビューを切り替えるタブが上部に配置されました。データの成形中にデータをより効率的に閲覧できるように、データ・グリッドの列をソートすることが可能になりました。

「計算式を作成」ダイアログ・ボックスの機能拡張

数値列で「計算式を作成」アクションを起動すると、以前のバージョンの場合と同様に、共通の算術演算用の単純なインターフェースが表示されます。しかし、より高度な機能が必要な場合のために、計算エディターに進むためのリンクも示されるようになりました。

その他のフィルター条件

テキスト列にフィルターを適用するとき、「次の値で始まる」、「次の値を含む」、「次の値で終わらない」などの条件を指定できるようになりました。これらのフィルター条件により、データを必要なものだけに削減することが容易になります。

「データ・グループの作成 (Create data group)」ダイアログ・ボックスの機能拡張

数値列にデータ・グループを定義する場合、デフォルトでは、以前のバージョンの場合と同様に各グループの範囲に対して等しく配分されます。ただし、データ内の最小値または最大値が変更された場合は、グループが動的に調整されるようになりました。範囲を明示的に設定した場合、各グループの範囲は動的には変更されません。

表の間の関係 (結合) を定義する際のユーザー・エクスペリエンスの改善

関係のキーとして一致する可能性のある列を参照すると、表データの表示領域とは別に、選択された列からのデータが表示されます。これにより、各表での選択された列の間に一致する値があるかどうかを容易に確認できるようになります。さらに、いずれかの列に重複する値があるかどうかを容易に確認できるようになるので、それに応じてカーディナリティーを設定するために役立ちます。カーディナリティーのオプションなど、設定値のラベルにはより簡単な用語が使用されます。関連付けられた情報アイコンにカーソルを合わせることで、オプションに関する詳細情報を参照することもできます。

こちらの短いビデオで、このリリースのいくつかの機能について紹介しています (https://youtu.be/6NH_OxavAsY)。

Cognos Analytics の管理

OpenID Connect 構成

サポートされる OpenID Connect プロバイダーのリストには、IBMid、Okta、Google、ADFS、Azure AD、SalesForce、および Ping が含まれるようになりました。

OpenID Connect 構成から、グループ、役割、およびフォルダーを削除することができます。

Planning Analytics データ・ソースのサポート

Cognos Analytics は、動的照会モードで IBM Planning Analytics バージョン 2.0 データ・ソースをサポートします。詳しくは、「IBM Cognos Analytics 管理ユーザー・ガイド」の『データ・サーバー接続の作成』を参照してください。

カスタマイズされたイメージを「ウィジェット」パネルに追加するための新しい拡張機能のサンプル

管理者は、新しい拡張機能 `SampleExtensionCustomMedia.zip` を使用して、イメージをダッシュボードの「ウィジェット」パネルに追加できます。詳しくは、「IBM Cognos Analytics 管理ユーザー・ガイド」の『ダッシュボード画像の追加』を参照してください。

パラメーターのカスタマイズ

管理者は、さまざまなレポートで使用できる標準パラメーター名を作成できます。さらに、さまざまなユーザーに、その役割に応じた異なるパラメーターを設定することもできます。これらのカスタマイズされたパラメーターは、ユーザーの「個人用パラメーター (**My parameters**)」パネルに表示されます。詳しくは、「IBM Cognos Analytics 管理ユーザー・ガイド」の『各レポートで使用できるパラメーターの設定』と『役割のデフォルト・パラメーターの設定』を参照してください。

ログ記録の新しいタイプ

Cognos Analytics は、診断ログ記録とユーザー・セッション・ログ記録をサポートするようになりました。

診断ログ記録は、製品の以前のリリースでの `JAVA ipfclientconfig.xml` ログ記録を置き換えたもので、特定の製品コンポーネントと機能のログ記録を詳細に設定することができます。このログは、`ca_installation/logs` ディレクトリーの `cognosserver.log` および `dataset-service.log` ファイルに保存されます。

セッション・ログ記録は、個々のユーザーが自分の Cognos Analytics セッションに対して有効にできるログ機能です。このログ記録は最大で 1 時間続けることができますが、ユーザーがいつでも停止できます。セッション用に一意の識別子が生成されます。ユーザー・セッションに関する情報だけが収集されて、名前に固有のセッション ID が含まれるログ・ファイルに保存されます。ユーザーまたは管理者は、ログ・ファイルを分析してユーザーの問題をトラブルシューティングすることができます。

インストールと設定

Cognos ネームスペースでの単純化された役割と機能

以下の役割と機能は事前定義された Cognos ネームスペースから削除されました。評価指標管理者、評価指標作成者、評価指標ユーザー、Planning 管理者、Planning ユーザー、Controller 管理者、Controller ユーザー、Data Manager 作成者、エクスプレス作成者、Adaptive Analytics 管理者、および Adaptive Analytics ユーザー。

管理およびセキュリティ

JDBC 接続での動的接続パラメーター

動的接続パラメーターをサポートするドライバーのために JDBC 接続にセッション変数を指定できます。詳しくは、「IBM Cognos Analytics 管理およびセキュリティ・ガイド」の『JDBC 接続の動的接続パラメーター』を参照してください。

リリース 11.0.6 - 2017 年 3 月

Cognos Analytics 11.0.6 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.6

全般

IBMid のサポート

IBMid は IBM の ID サービスであり、クラウド・ベースの ID 管理ソリューションです。IBMid を使用すると、ほとんどの SAML 2.0 ID プロバイダーを使用して統合されているお客様の他の多くのアプリケーションに Cognos Analytics を統合することができます。

IBMid に接続するには、**OpenID Connect** ネームスペース・タイプを使用します。

ショートカット

「個人用コンテンツ」または「チーム・コンテンツ (**Team Content**)」で、パッケージ、フォルダー、レポート、ダッシュボード、データ・セットなどのコンテンツ・オブジェクトへのショートカットを作成することができます。

レポートのバージョン

レポートを Reporting で開かなくても、「個人用コンテンツ」または「チーム・コンテンツ (**Team Content**)」でレポートのレポート・バージョンを保存できます。

ダッシュボードとストーリー

OLAP パッケージのサポート

ダッシュボードでディメンション・データ・ソースにアクセスできます。PowerCube、動的キューブ、TM1 データ・ソース、ディメンションを使用してモデル化されたリレーショナル (DMR) データ・ソース、その他のデータ・ソースに基づいた OLAP パッケージがサポートされます。

こちらの短いビデオで、OLAP サポートおよび他のダッシュボード機能について紹介しています (https://youtu.be/Bm55Y_qYZzM)。

テンプレートの変更

タブ構成のダッシュボードまたはストーリーのシーンを作成中にテンプレートを変更することができます。レイアウトを変更したら、周囲のオブジェクトを移動してフィットさせます。

テンプレートについて詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide*」を参照してください。

ウィジェットの接続

キャンバス上のウィジェットの接続状況を確認したり、新しい接続を作成したり、接続を無効にしたり、新しい接続のグループを作成したりできます。

ウィジェットの接続について詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide*」を参照してください。

新しいアニメーション効果

ストーリーで新しいアニメーション・オプションを使用して、オブジェクトがシーンに現れるときのアクションおよびシーンから消えるときのアクションとして、より多くのアクションを追加できるようになりました。新しいアニメーションには、スケールイン/スケールアウト、シュリンクイン/エクスパンドアウト、ピボットイン/ピボットアウトなどがあります。

新しい効果は、オブジェクトのプロパティにある「アニメーション (**Animation**)」タブから使用できます。

こちらの短いビデオで、ストーリーの機能について紹介しています (<https://youtu.be/PbB-z5YO-q0>)。

タイムラインの再配列

ストーリーのタイムラインをタップしてドラッグすることでシーンのオブジェクトの表示順序を変更できます。

更新されたピンの検索

「マイピン」パネルでの検索が強化され、ピン留めオブジェクトの検索結果に対する制御性が大幅に向上しました。検索フィールドのフィルター・アイコンを使用すると、検索対象のオブジェクトをいつピン留めしたかという条件で検索を絞り込むことができます。例えば、過去 1 週間に追加したピンに検索結果を絞り込むことができます。

地図機能の拡張

地図上に視覚化できる地域が増えました。例えば、州、市、郵便番号などを視覚化できます。あいまいな名前については、地図上に描画する地域をシステムが判別できるように、修正した地域を指定できます。

「選択したソース (**Selected sources**)」パネルのナビゲーション・パス

「選択したソース (**Selected sources**)」パネルにナビゲーション・パスが表示されるようになりました。ナビゲーション・パスを展開し、列をキャンバス上にドラッグします。

グリッドの視覚化の向上

グリッドの視覚化には、集計、自動サイズ設定、対話性の向上などがあります。集計の表示/非表示の切り替え、ドリルアップおよびドリルダウンが可能です。

自動サイズ設定の新しいテキスト型

自動サイズ設定の新しいテキスト型のサイズを変更すると、フォント・サイズが自動的に調整されます。プロパティで固定のフォント・サイズを設定できます。

Cognos Analytics の管理

役割用のカスタム・フォルダー

役割用のカスタム・コンテンツ・フォルダーを作成することができます。カスタム・フォルダーは、「チーム・コンテンツ (Team content)」下のナビゲーション・バーに表示されます。

データ・サーバー接続エディターの変更

データ・サーバー接続を作成および編集するためのユーザー・インターフェースが大幅に変更されました。新しいインターフェースには JDBC URL のヒントと例が示されるので、JDBC 接続をより簡単に定義できます。

新規データ・ソースのサポート

動的照会モードで、以下のデータ・ソースがサポートされるようになりました。

- Google BigQuery

Cognos Analytics は、Google BigQuery JDBC ドライバーを介して Google BigQuery をサポートします。標準 SQL のデフォルトのドライバー設定をレガシー SQL に変更してはいけません。ドライバーのデフォルトのタイムアウト設定を引き上げる必要がある場合があります。Google サービス・アカウントを使用して接続を認証する必要があります。

- Google Cloud SQL

Cognos Analytics は、MySQL 5.6 または 5.7 として構成された Google Cloud SQL 第 2 世代データベースをサポートします。

Cloud SQL インスタンスへのデータ・サーバー接続を定義するには、MySQL 接続エディターと MySQL JDBC ドライバーを使用します。

- Azure 上の Microsoft SQL データベース

Azure 上の SQL データベースへのデータ・サーバー接続を定義するには、Microsoft SQL Server 接続エディターと Microsoft SQL Server JDBC ドライバーを使用します。接続の詳細は、Azure のデータベースを管理するユーザーのポータル・ページで参照できます。接続すると、JDBC によって返される製品名は Microsoft SQL Server となり、バージョン番号は 12.00.xx となります。

- IBM Planning Analytics

Cognos Analytics は、IBM Planning Analytics バージョン 2.0 データ・ソースをサポートします。

このデータ・ソースへの接続を作成するには、IBM Cognos Administration で IBM Planning Analytics 接続エディターを使用します。このリリースでは、「管理」 > 「データ・サーバー接続 (Data server connections)」でこのデータ・ソースへの接続を作成することはできません。

高度なルーティング用語への変更

製品ユーザー・インターフェースおよび資料内の「ルーティング・セット」という用語が「ルーティング・タグ」に変更されました。

レポート作成

データ・モジュールにおけるクエリーのサポートの向上

データ・モジュールをデータ・ソースとして使用する場合に、以下を行うことができます。

- クエリー計算の追加。
- クエリーの表示と編集。
- フィルターの編集。
- 式エディターによるデータ・アイテムの作成と変更。
- 条件付きスタイルの追加。

Cognos Analytics インタラクティブ・ビューアーでのリストの列見出しの固定

リスト・オブジェクトにプロパティ「スクロール可能域の高さ」が追加されました。このプロパティを使用して、スクロール可能なリストを作成できます。インタラクティブ・ビューアーでリスト・データをスクロールダウンするときにリストの列見出しは表示されたままになります。

Cognos Analytics インタラクティブ・ビューアーの向上

インタラクティブ・ビューアーは以下の機能をサポートします。

- フィルターの作成、編集、または削除。
- データ・アイテムに関する用語集および系統情報へのアクセス。
- レポートの現在のビューのコンテキスト (プロンプト値など) を保持した状態でのレポート出力の共有または埋め込み。
- レポート所有者としてのレポートの実行、または所有者機能を使用したレポートの実行。

こちらの短いビデオで、レポート作成の機能について紹介しています (<https://youtu.be/pmJz7O8SIYE>)。

インストールと設定

OpenID Connect ネームスペース

OpenID Connect ネームスペース・タイプを使用して、IBM Cognos Analytics のための IBMId 認証を実装します。 IBMId

は、IBM の ID サービスです。これは、IBM アプリケーションに ID サービスおよびシングル・サインオン・サービスを提供するクラウド・ベースの ID アクセス管理ソリューションです。

制約付き委任

制約付き委任 (Microsoft の Kerberos 拡張機能) のサポートにより、サービスは、ユーザーのサービス・チケットを自らに提示してユーザーの代わりに別のサービスのチケットを取得することができます。

Kerberos とシングル・サインオン

Kerberos ログイン・モジュールの構成手順に変更が加えられました。

アップグレード時のファイルの保持

アップグレード時に保持すべきファイルが、`install_location¥configuration¥preserve¥.ca_base_preserve.txt` にリストされています。このファイルは編集しないでください。アップグレード時にファイルまたはディレクトリーを削除したり保持したりするには、`install_location¥configuration¥preserve¥preserve.txt` を編集してください。 `preserve.txt` の使用方法に関する説明は、このファイル自体に含まれています。

リリース 11.0.5 - 2016 年 11 月

Cognos Analytics 11.0.5 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.5

コンテンツの共有と組み込み

レポート、データ・モジュール、ダッシュボード、ストーリーなどのコンテンツ・アイテムでは、「共有」ボタンと「組み込み」ボタンが使用可能です。これらのボタンでは、コンテンツ・アイテムを直接 Web ブラウザーで開いたり、コンテンツ・アイテムをカスタム Web ページに組み込んだりするための URL が作成されます。

カスタム URL の作成

IBM Cognos Analytics のコンテンツを開いたり実行したりするカスタム URL を作成することができます。この機能を利用すれば、共有や組み込みの機能が拡張され、コンテンツ・オブジェクトを開いたり実行したりする方法をさらに制御できるようになります。

ダッシュボードとストーリー

ナビゲーション・パス

モデル作成者がナビゲーション・パスを作成した後は、ダッシュボードまたはストーリー内の属性についてドリルダウンおよびドリルバックを実行することができます。また、パス内の任意のレベルにナビゲートし、現行コンテキストをそのレベルに渡すこともできます。

こちらの短いビデオで、ダッシュボードの機能について紹介しています (https://youtu.be/zYKDnj5A_y8)。

新しい視覚化エンジン

このリリースのダッシュボードとストーリーには、革新的な新しい視覚化機能が含まれています。既存のダッシュボードとストーリーは、新しい視覚化機能を使用するよう、自動的にアップグレードされます (ツリー・マップとマップを除く)。新しい視覚化では、次世代の Rapidly Adaptive Visualization Engine (RAVE) が利用されています。さらに、任意のグラフでズームとパンを実行できるようになりました。

新しいマップ視覚化

新しいマップ視覚化でデータを視覚化するには、必須となるマップを作成します。従来のマップ視覚化も、ダッシュボードやストーリーで使用するために使用可能です。また、従来のマップが含まれる既存のダッシュボードまたはストーリーを開く際には、従来のマップがそのまま保持されます。

インフォグラフィックのアイコン配列視覚化

合計値を表す形状を反復するアイコン配列を作成します。そのためには、単一値のアイテムに形状をドラッグします。各形状は、それぞれ 1 つの数値を表します。例えば、ドル記号の形状を値 150 のアイテムにドラッグした場合、視覚化に 15 個のドル記号形状が含まれます。その場合、各形状が値 10 を表します。

新しいストーリー・タイプ: ガイド付きジャーニー

ガイド付きジャーニーは、ストーリーによりユーザーを視覚的にガイドする新しいストーリー・タイプです。ツアーは、ストーリーのピクチャー全体として開始された後、キャンバスを通じてパンおよびズームを実行して詳細に至ります。

こちらの短いビデオで、ストーリーの機能について紹介しています (<https://youtu.be/V7xv3Knhq-4>)。

動的照会モードの **Framework Manager** パッケージのサポート

ダッシュボードおよびストーリーで、リレーショナル、動的照会モードの **Framework Manager** パッケージにアクセスできるようになりました。それには、プロンプト、独立型計算、および独立型フィルターのサポートが含まれます。

Framework Manager パッケージにおいて、データ・トレイおよびグローバル・フィルターは使用できません。

レポート作成

ディメンション・リスト

Cognos Analytics インタラクティブ・ビューアーで、ディメンション・データ・ソースからのデータを含むリストに対してディメンション操作を実行することができます。例えば、次のことが可能です。

- ドリルアップ、ドリルダウン、およびトップ/ダウン・フィルタリングなど、その他のタイプの閲覧の実行
- 算出メンバーの追加

新しい視覚化

新しい視覚化は、「視覚化ギャラリー」で使用できます。「視覚化」ツールをレポートにドラッグし、「フィルター」アイコンをクリックしてから、「新しい視覚化 (**New visualizations**)」を選択してリスト全体を表示します。

新しい視覚化に加えて、「視覚化ギャラリー」に従来のグラフおよび従来の視覚化のすべてが含まれるようになりました。「グラフ」ツールは非推奨です。

Cognos Analytics インタラクティブ・ビューアーでのグラフ要素の選択

Cognos Analytics インタラクティブ・ビューアーで実行するレポートで、グラフ内の要素を選択し、ドリルアップやドリルダウンなどのさまざまな操作を実行できるようになりました。

ページおよびクエリー・ナビゲーションの改善

ページ・エクスプローラーおよびクエリー・エクスプローラーが、**Cognos Analytics - Reporting** サイド・メニュー・バーで直接に利用可能になりました。

Cognos Analytics インタラクティブ・ビューアーの **Excel** および **CSV** 出力オプション

Cognos Analytics インタラクティブ・ビューアーでレポートを実行する場合に、ビューアーで (レポートのフィルター操作などの) 操作を実行した後に **Excel** または **CSV** 出力を生成できるようになりました。

プロンプト・コントロールの新しいユーザー・インターフェース

レポートに追加されるプロンプト・コントロールのための新しいインターフェースが使用可能です。新しいインターフェースを指定するには、レポート・レベルの「プロパティ」ウィンドウを開き、「レポートのスタイル」プロパティをクリックして、「**11.4**」を選択します。

再設計された「フィルター」ウィンドウ

カスタム・フィルターを作成すると、再設計された「フィルター」ウィンドウが表示されます。

こちらの短いビデオで、レポート作成の機能について紹介しています (<https://youtu.be/o25JR8EVpNI>)。

データのモデリング

データ・モジュールのためのソースとしてのパッケージ

IBM Cognos Framework Manager パッケージを、データ・モジュールのソースとして使用することができます。リレーショナル、動的照会モードのパッケージのみサポートされています。

データ・モジュールのリンク

既存のデータ・モジュールに対するリンクを、データ・モジュール内に作成することができます。

ナビゲーション・パス

ダッシュボードとストーリーで、拡張されたドリルダウンおよびドリルバックのオプションを提供するため、ナビゲーション・パスを作成することができます。

IBM Cognos Analytics の旧リリースの場合、ドリルダウン・アクションでは階層データが必要でした。例えば、「国」から「市区町村」にドリルダウンすることはできますが、「年」から「市区町村」にはできません。ナビゲーション・パスははるかにフレキシブルであり、業務分析のために必要なら、「年」から「市区町村」へのドリルダウンも可能です。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Data Modeling Guide*」を参照してください。

Framework Manager モデルでの SAP HANA 入力パラメーターのサポート

IBM Cognos Framework Manager モデル作成者は、分析および計算ビューでの SAP HANA 入力パラメーターを認識するデータ・ソース・クエリー・サブジェクトを作成できるようになりました。それらの入力パラメーターは、フィルターや計算フィールドで使用できる値を渡すために使用されます。それらの値は、SAP プロプラエタリー PLACEHOLDER 構成を使用することにより、SQL ステートメントで渡す必要があります。

SAP HANA からメタデータをインポートする際、モデル作成者は、SAP HANA _SYS_BIC スキーマから分析または計算ビューを選択することができます。ビューがインポートされると、SAP HANA _SYS_BI.BIMC_VARIABLE_VIEW に対してクエリーが実行され、入力パラメーターに関する情報が取得されます。

Framework Manager において、選択されたオブジェクトから作成されるデータ・ソース・クエリー・サブジェクトには、新しいタブが含まれています。このタブには、SQL ステートメントから PLACEHOLDER 構文を使用することによって SAP HANA に渡される値を受け入れるために実行時に使用される一連のパラメーターが表示されます。

Framework Manager において、SQL ステートメントの中で、述語として SAP HANA に渡される詳細フィルターを定義することができます。詳しくは、「*IBM Cognos Framework Manager ユーザーズ・ガイド*」のうち、SAP HANA 入力パラメーターをデータ・ソース・クエリー・サブジェクトのパラメーターにマッピングすることについてのトピックを参照してください。

こちらの短いビデオで、データのモデリングの機能について紹介しています (<https://youtu.be/9Nfqx-qw5po>)。

Cognos Analytics の管理

ライセンス管理

Cognos Analytics の「管理」ツールに、「ライセンス」タブが含まれるようになりました。システム管理者は、このタブを使用することにより、実稼働環境と非実稼働環境において製品ライセンスを管理することができます。

管理者は、組織の所有するライセンスの合計数を入力および保存し、現在使用されているライセンスの数を表示することができます。ユーザーによるライセンス使用状況についての詳細を表示するレポートを生成することができます。

役割ベースのユーザー・インターフェース・カスタマイズ

デフォルトのテーマ、カスタマイズ済みホーム・ビュー、機能の選択を、役割ごとに指定できます。

カスタマイズされたダッシュボード形状およびウィジェット

ダッシュボードで使用するためのカスタム形状およびウィジェットを作成することができます。

データ・サーバーからのメタデータのプリロード

データ・サーバーからメタデータをプリロードすることができます。データ・サーバーからデータ・モジュールを作成する際に、この機能を使用すると時間の節約になります。

新規データ・ソースのサポート

動的照会モードで、以下のデータ・ソースがサポートされるようになりました。

- Amazon Aurora

Amazon Aurora は、MySQL 互換のリレーショナル・データベースです。MySQL 接続エディターおよび MySQL JDBC ドライバーを使用することにより、Amazon Aurora への接続を定義することができます。

- Snowflake

Snowflake JDBC ドライバーのサポートされる最低バージョンは、2.8.1 です。

- Pivotal HDB

Pivotal HDB への接続では、正しいサーバー名およびバージョンが検出されるようにするため、5.1.1.000069 (F000111.U000048) やそれ以上など、Pivotal JDBC ドライバーの新しいバージョンを使用する必要があります。管理ユーザー・インターフェースで接続をテストすると、状況情報が返されます。製品名が Greenplum であって HAWQ ではない場合、そのドライバーは古いものであり、更新する必要があります。詳しくは、Pivotal HDB エンジンで停止するクエリー (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21994557>) を参照してください。

インストールと設定

Microsoft SQL Server JDBC ドライバー

Microsoft SQL Server 用 JDBC ドライバーは、Microsoft JDBC ドライバーによって置き換えられています。JAR ファイルをダウンロードし、ドライバー用のフォルダーに配置する必要があります。詳しくは、*Microsoft SQL Server Content Store* のデータベース接続のセットアップを参照してください。

Apache 2.4 Web サーバーのサポート

Apache 2.4 の構成作業について詳しくは、*Cognos Analytics* と *Apache HTTP Server* または *IBM HTTP Server* の設定を参照してください。

リリース 11.0.4 - 2016 年 9 月

Cognos Analytics 11.0.4 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.4

インストールと設定

インストールと設定の変更点は、Cognos Analytics の使用を開始し、その可能性を最大限引き出して使用し続けるのに役立ちます。変更には、新しいサンプル、LifeCycle Manager の追加、Oracle PDB サポート、およびゲートウェイ・サポートに対する変更が含まれます。

サンプル

データ・ソースとしてスプレッドシートを使用するサンプルのセットが追加されました。これらのサンプルは、Easy インストールではデフォルトでインストールされ、カスタム・インストールではオプションでインストールされます。サンプルの配布アーカイブがインストール時に *install_location/deployment* フォルダーにコピーされます。ただし、やはりインポートを実行する必要があります。

1. ポータルから「管理」 > 「管理コンソール」を開きます。
2. 「設定」タブを選択し、「コンテンツ管理」をクリックします。
3. 「新規インポート」ツールをクリックします。サンプルの配布アーカイブの名前は、*Samples_for_Install* です。

サンプルは、ポータルの **Team content/Get started** フォルダーに配布されます。サンプルには、レポート、ダッシュボード、アクティブ・レポート、およびデータが含まれています。

install_location/samples/extensions に、配布可能な追加のサンプル・アーカイブがあります。

LifeCycle Manager

インストール・ウィザードに、IBM Cognos LifeCycle Manager をインストールするオプションが用意されました。LCM は、Cognos アプリケーションで実行され、Cognos が生成した出力 (データおよびレンダリングされた表示) の差異を検証するツールです。

Content Store データベースとしてサポートされる Oracle PDB

Content Store として Oracle のプラグブル・データベース (PDB) を使用できるようになりました。Content Store のタイプとして「Oracle データベース (拡張)」を使用します。「データベース指定子」フィールドに「//<サーバー>/<サービス名>」と入力してください。

Cognos Analytics ゲートウェイの構成

IIS を使用してゲートウェイを構成するプロセスに、いくつかの変更と機能強化が行われました。以下のトピックを参照してください。

- *Cognos Analytics* と *Apache HTTP Server* または *IBM HTTP Server* の設定を参照してください
- *Configuring IIS with Cognos Analytics*
- バージョン 11.0.3 から 11.0.4 にアップグレードする際の IIS と *Cognos Analytics* のセットアップ

データ・セット

パッケージまたはデータ・モジュールから抽出する列と行を選択して、パッケージとデータ・モジュールからデータ・セットを作成できるようになりました。抽出されたデータは、詳細フォームまたは集計フォームに保存できます。データ・セットは列形式で保存されます。また、データ・セット更新をスケジュールできます。

データのモデリング

データ・モデリングに、以下の機能が追加されました。

- 既存のデータ・モジュールを、新しいデータ・モジュールを作成するためのソースとして使用できます。
- データ・セットを、データ・モジュールを作成するためのソースとして使用できます。
- スナップショットは利用できなくなりました。スナップショットはデータ・セットに置き換わりました。
- 「元に戻す」操作および「やり直し」操作をユーザー・インターフェースで使用できるようになりました。
- ユーザー・インターフェースで表と列を非表示にして、レポートやダッシュボードのユーザー向けにすっきりした形でメタデータを表示できます。
- データにヌル処理オプションを指定することができます。
- データ・モジュールを検証して、計算式、フィルター、または結合の中の無効な参照を検出できます。

Cognos Analytics ユーザー・インターフェースのカスタマイズ

ボタンやメニューなどのユーザー・インターフェース要素を追加したり削除したりして、IBM Cognos Analytics ユーザー・インターフェースをカスタマイズできます。デフォルトのサインイン・ビューとホーム・ビューを置き換えることもできます。

レポートへの JavaScript の追加

レポートを対話モードで実行する場合 (レポートのプロパティ「完全対話による実行 (**Run with full interactivity**)」を「はい (**Yes**)」に設定) に実行される JavaScript を、レポートに追加することができます。

「レポート作成」ツールボックスの新しいオブジェクト、カスタム・コントロールを使用して、レポートに独自のユーザー・インターフェースを追加できます。そのページの「モジュール・パス (**Module path**)」プロパティを使用して、レポート・ページまたはプロンプト・ページに適用する JavaScript を追加することもできます。

クライアント・ワークステーションのログインのサポート

IBM Cognos サーバーに存在するログイン機能に加えて、独自のワークステーション用のログおよびエラー報告書を生成することができます。クライアント・サイドのこのタイプのログインは、トラブルシューティングの場合に重要です。また、サーバー環境からは検出できない JavaScript の異常をカバーできます。

レポート作成でのドリルスルーおよびプロンプト API のサポート

レポートで作成するドリルスルー定義、およびプロンプト API が、対話モードで実行されるレポート (レポートのプロパティ「完全対話による実行 (**Run with full interactivity**)」を「はい (**Yes**)」に設定) でサポートされます。

ビジュアル・ストーリーテリング

データのストーリーを視覚的に伝えます。ストーリーとは、一連のシーンを時系列に沿って表示する一種のビューです。見解を共有するために視覚効果を使用するという点では、ストーリーはダッシュボードに似ています。経時変化を説明し、結論や推奨を伝えるのに有効であるという点では、ストーリーはダッシュボードと異なります。

ストーリーがダッシュボードと異なるもう 1 つの性質は、1 つのシーンの中に視覚効果や他のオブジェクトを表示したり非表示にしたりすることで、アニメーション効果を作成できる点です。

他のストーリーやダッシュボードからピン留めした視覚効果を再利用することができます。また、最初から視覚効果を作成することもできます。

ダッシュボードおよびストーリーでのピン留め

Cognos Analytics でデータを使用するときに、ピン留めを使って、ダッシュボードやストーリーの見解を保存しておくことができます。画像などの他のアイテムを保存することもできます。それらの視覚効果や他のアイテムを、調査結果を他の人々と共有するために作成するダッシュボードやストーリーに素早く追加できます。

ビューの中で複数のアイテムを選択し、各アイテムをピンのコレクションに同時に追加できます。ビューでアイテムをグループ化し、そのアイテムのグループを 1 つのピンとしてピンのコレクションに追加することもできます。

ダッシュボードおよびストーリーでのクロス集計の視覚化

クロス集計の視覚化をダッシュボードやストーリーに追加できるようになりました。クロス集計とは、行と列の交差部分の値を表示して、データを異なる視点から見られるようにするものです。

ダッシュボードとストーリー中のクロス集計には、2つのレベルのネスティング、および無数の列の数値データを含めることができます。クロス集計では、列と行を入れ替えたり、集計の表示/非表示を切り替えたり、値に条件付き書式を適用したりできます。

ダッシュボードとストーリーでの条件付き書式

グリッドとクロス集計の視覚化で、数値データを新しい「色 (Color by)」列にドラッグして、条件付き表示形式を定義できるようになりました。条件付き表示形式によって、色を使ってデータ分布を理解したり、例外的なデータ・ポイントを強調表示したりできます。例えば、売り上げの低い数値を赤で強調表示し、一定のしきい値を超えた値を緑で強調表示する、といったことが可能です。

視覚化のタイマーの更新

ダッシュボードとストーリーで、個々の視覚効果のプロパティに、そのアイテムの表示の自動更新頻度を示すタイマーを秒、分、時間単位で設定できるようになりました。

ダッシュボードおよびストーリーでのランキングによる列の順番の設定

任意のグラフで、数値データをフィルターに掛けて、上位 5 個、上位 10 個、下位 5 個、下位 10 個の数値データを表示できるようになりました。

ダッシュボードまたはストーリーの範囲内でのデータ・セットの編集および更新パッケージまたはデータ・モジュールに基づくデータ・セットを、ダッシュボードまたはストーリーから離れることなく、編集し更新できます。

リリース 11.0.3 - 2016 年 7 月

Cognos Analytics 11.0.3 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.3


入門チュートリアルとサンプル

初心者を対象に、最初のレポート、アクティブ・レポート、およびダッシュボードの作成をガイドするための新規チュートリアルとサンプル (データを含む)、ビデオ、および手順書があります。

詳しくは、始めに [ビデオ・チュートリアルとサンプル](#) を参照してください。

アップロード・ファイルからのデータ・セットおよびスナップショット・モードのデータ・モジュールは、**Content Store** に保存されるようになりました。

Cognos Analytics の以前のバージョンでは、アップロード・ファイルからのデータ・セットおよびスナップショット・モードのデータ・モジュールは、ファイル・システムに保存されていました。これらは、現在、デフォルトでは **Content Store** に保存されます。

新規ユーザー・コミュニティとヘルプ  へのリンク

ビデオ、入門リソース、専門家のブログ、イベント、その他へのリンクに、アプリケーション・バーの「ヘルプ」アイコンをタップし、IBMCognos Analytics Community (www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics/) に移動してアクセスできるようになりました。「ヘルプ」アイコンからヘルプ文書にリンクすることもできます。

レガシー・コンポーネントが **Cognos Analytics** の **IE** ブラウザー設定で機能するようになりました

Cognos Analytics 11.0.0 で Quirks モードから標準モードの HTML に変更されたときは、Cognos 10.2.2 をアップグレードして、Microsoft Internet Explorer Web ブラウザーを使用するためには、互換モードを有効にしたブラウザ設定を変更する必要がありました。ただし、IBM Cognos Query Studio や IBM Cognos Analysis Studio などのレガシー・コンポーネントは依然として互換モード設定が必要でした。現行リリースで、これらのレガシー・コンポーネントは、メタ・タグを使用して自動的に互換モードに切り替わるようになりました。

詳しくは、Cognos Analytics conversion to Standards Mode (www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21982010) を参照してください。

新規データ・ソースのサポート

動的照会モードでは、以下のデータ・ソースがサポートされるようになりました。

- Denodo

サポートされている Denodo のバージョンについては、この記事 (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21984378>) を参照してください。

- MongoDB Connector for Business Intelligence (BI)

サポートされている MongoDB Connector for BI の最小バージョンは 1.1.3 です。

- SAP Sybase Adaptive Server Enterprise (ASE)

CognosCognos Analytics の「データ・サーバー (**Data servers**)」ページからこのデータ・ソースを追加する場合は、「**SAP Sybase IQ および ASE (SAP Sybase IQ and ASE)**」というタイプを選択します。CognosCognos Administration では、「**JDBC**」というタイプを選択してから、「**SAP Sybase IQ および ASE (SAP Sybase IQ and ASE)**」を選択します。

照会サービスの **JVM** ヒープ・サイズの上限

上限が 1024 から 8192 MB に増えました。「照会サービスの **JVM** ヒープ・サイズの上限 (**JVM heap size limit for the query service**)」プロパティを変更すると、IBM Cognos Administration の JVM ヒープ・サイズの上限を変更できます。詳しくは、Memory Guidelines for Dynamic Query Mode (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21587457>) を参照してください。

複数のパッケージをサポートするレポート

レポートを作成する場合、動的照会モードを使用する複数のパッケージや、互換照会モードを使用する単一のパッケージから、データ・アイテムを追加できます。

IBM Cognos Active Report で使用できる新しいリスト・コンテナ

アクティブ・レポートを作成する場合、データ・リストと呼ばれる新しいリスト・コンテナを使用できます。データ・リストは、Cognos サーバーではなくクライアント・コンピューターまたはデバイス上で実行されるため、通常のリストよりもパフォーマンスが良くなっています。

データ・リストには、固定された見出しがありますが、これらはスクロール可能です。その他のフィーチャーとして、行に色のシーケンスを適用したり、列の値をマイクログラフに置換したりすることができる機能があります。

レポート出力のフィルター・テキスト

レポートを作成する場合、レポートの実行時に適用するフィルターを示すテキストを追加できます。

モデリング・ユーザー・インターフェースの追加の対話機能

以下の機能を使用して、ダイアグラム内からデータ・モジュールを編集できます。

- ソース表をダイアグラム内にドラッグ・アンド・ドロップする。
- ダイアグラムから表と結合を編集する。
- ダイアグラムから結合を削除する。

列を式エディター内にドラッグ・アンド・ドロップすることもできます。

ダッシュボードでの単純な計算

グリッド内または左側のデータ・パネルから、2 つの数値データに対する単純な計算を実行します。計算の結果とタイトルが含まれる新しい列がグリッドに表示されます。計算式は、新規データ・アイテムとして、データ・パネル内のリスト下部にも表示され、ダッシュボードで再使用できます。計算式は、容易に編集したり、名前変更したりすることができます。新しい計算式には、加算、減算、乗算、除算、割合、および変化率が含まれます。詳しくは、*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide* を参照してください。

ダッシュボード内の数値データ・フォーマットの制御の改善

数値データを表示する場合、モデラーで指定された数値フォーマットが受け入れられ、ダッシュボード内のデータのフォーマット方法を制御できます。例えば、モデルでは、数値データに日付形式が適用されている場合、そのデータを、ダッシュボード内で短い日付、中程度の日付、または長い日付でフォーマットできます。詳しくは、*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide* を参照してください。

別のソースへのダッシュボードの再リンク

ダッシュボードは、ダッシュボードから同じソースや別のソースに直接再リンクできます。例えば、ご使用の視覚化は、「販売データ」と呼ばれるソー

スにリンクされています。この視覚化は、更新された「販売データ」に再リンクしたり、「地域販売データ」と呼ばれる別のソースに再リンクしたりすることができます。両方のソースに同じ列が表示される場合、視覚化は自動的に更新されます。列が一致しない場合、視覚化では、フィールドが欠落していることが示されます。これを修正するには、視覚化を展開し、列を手動で更新します。詳しくは、*IBM Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide* を参照してください。

リリース 11.0.2 - 2016 年 5 月

Cognos Analytics 11.0.2 の新機能と変更された機能は、以下のとおりです。

11.0.2

ユーザー補助機能が使用可能になりました

Cognos Analytics にユーザー補助機能が組み込まれ、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが製品を快適に使用できるようにサポートするようになりました。

詳しくは、「*Cognos Analytics Accessibility Guide*」を参照してください。

第 2 章 非推奨の機能および削除された機能

Cognos Analytics の以下の機能は、非推奨または削除されています。

11.0.11 - 2018 年 5 月

非推奨の **Pivotal HDB** データ・ソース

Pivotal HDB データ・ソースは非推奨であり、Cognos Analytics の将来のバージョンでは削除される予定です。

11.0.8 - 2017 年 11 月

サポートが終了したデータ・ソース

以下のデータ・ソースはサポートされなくなりました。

- Mongo Connector for BI バージョン 1。
- Hitachi Advanced Data Binder Platform (JDBC)
- IBM Domino (JDBC)

11.0.7 - 2017 年 8 月

非推奨のデータ・ソース

以下のデータ・ソースは非推奨であり、Cognos Analytics の将来のバージョンでは削除される予定です。

- Hitachi Advanced Data Binder Platform (JDBC)
- IBM Domino (JDBC)

11.0.6 - 2017 年 3 月

サポートが終了したデータ・ソース

このリリース以降、次のデータ・ソースはサポートされません。

- Actian Matrix (ODBC および JDBC)

Actian Matrix サーバーにアクセスするには、Microsoft Windows オペレーティング・システムで ODBC ドライバーを使用する ODBC DSN を参照するために、汎用 ODBC 接続タイプを使用します。既存の JDBC 接続を使用しようとすると、拒否されます。

- Actian Vector (ODBC)

Actian Vector サーバーにアクセスするには、Microsoft Windows オペレーティング・システムで ODBC ドライバーを使用する ODBC DSN を参照するために、汎用 ODBC 接続タイプを使用します。

- IBM IMS™ (JDBC)

11.0.5 - 2016 年 11 月

非推奨のデータ・ソース

以下のデータ・ソースは非推奨であり、Cognos Analytics の将来のバージョンでは削除される予定です。

- Actian Matrix (ODBC および JDBC)
- Actian Vector (ODBC)
- IBM IMS (JDBC)

11.0.3 - 2016 年 7 月

サポートが終了したデータ・ソース

このリリース以降、次のデータ・ソースのサポートは終了しました。

- IBM Cognos Finance
- Microsoft Analysis Services 2005 (ODBC)
- Microsoft Analysis Services 2008 (ODBC)
- Microsoft SQL Server (SQL 2005 Native Client)
- Microsoft SQL Server (SQL 2008 Native Client)
- Microsoft SQL Server (OLE DB)
- SAP ECC

詳細は、Cognos Analytics でサポート対象外となったデータ・ソースを参照してください。

11.0.2 - 2016 年 3 月

サポートが終了したデータ・ソース

このリリース以降、次のデータ・ソースのサポートは終了しました。

- Composite (ODBC)
- IBM Cognos Now! - Real-time Monitoring Cube
- IBM Cognos Planning - Series 7
- IBM Cognos Virtual View Manager (ODBC)
- IBM Red Brick® (ODBC)
- Progress OpenEdge (ODBC)
- Siebel
- Sybase Adaptive Server Enterprise (CT-Lib)

詳細は、Cognos Analytics でサポート対象外となったデータ・ソースを参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。